

発表概要について

宮城県農業高等学校

肥育に挑む私たちは、牛を愛する気持ちだけは絶対に負けないという想いを胸に先輩達から受け継いだ「愛情=肉質！」を合言葉に肥育を実践し取り組みました。

私たちは和牛甲子園に向けて40ヶ月前から準備を行い、少ない和牛頭数で戦うために受精卵移植の技術と分娩の時期を計算して出産させ、マニュアルに沿った給餌方法や衛生管理を毎日欠かさず行ない、「とうふ」に寄り添いながら飼育を進めて来ました。

3つの愛情（哺乳期間×愛情、育成期間×愛情、肥育期間×愛情）をかけあわせたことにより、「とうふ」へのストレスを軽減し、「とうふ」との信頼関係を構築できたことで、安心して過ごせる環境を提供することができました。また和牛肥育を一から学び、改めて命のありがたみ、食に対する喜びに気づくことができました。「とうふ」に感謝の気持ちを伝えたいです。そして、仙台牛を私たちの思いと共に全国へ普及させていきます。